



2016年6月
あおぞら保育園
あおぞら第2保育園
あおぞら谷津保育園

6月は梅雨（つゆ）に入り、ジメジメする日が増えます。涼しい日や真夏のように日差しの強い日もあり、気温の変動が大きい月でもあります。

子どもたちにとっても、食欲低下や発汗が多くなるなど、不快を感じる季節です。

横浜市内の感染症流行状況によると、流行性耳下腺炎（おたふく風邪）が例年より多い状況が続いています。また夏風邪や手足口病、咽頭結膜熱（プール熱）などが流行する時期です。

手洗いやうがいなど健康・衛生面に気をつけて、気持ちよく過ごせるように心がけていきましょう。

快適にすごすために



からだ

- ☆ **いつも皮ふは清潔に保ちましょう**
毎日の入浴・洗髪、爪チェックも忘れずに。
- ☆ **着替えをこまめにしましょう**
木綿の下着で、常に清潔に。
洗濯物は、よく乾かして。
- ☆ **手洗いとうがいを励行しましょう**
あそんだ後や、外出後、食事の前後、
トイレの後の手洗いは特に丁寧に。

とびひ

<原因> 虫さされやかきむしった場所に黄色ブドウ球菌などが感染することで起きます。ほかの場所に次々と広がっていくので「とびひ」といわれます。幼児の間ではうつりやすい病気で、高温多湿の夏によく起きます。

<症状> 皮ふに水ぶくれが生じ、破けて赤むけになります。赤むけのふちから拡大し、次々とびひして新しい病変ができ、ほかの場所に発症します。

<注意点> 抗生物質の服用がおもな治療法です。とびひかなと思ったら、早めに受診してください。とびひの部分がじくじくして湿っているときは、感染しやすいです。体や衣服を清潔にすることも大切です！また、食中毒の原因にもなります。

虫よけ剤について

保育園では蚊とり線香を含め虫よけ剤は使用しません。虫よけ剤の成分には「ディート」など化学薬品が含まれるからです。使用する場合は、保護者の判断で登園前に使用してください。

保育園で蚊にさされた時の対応としては、かゆみが強い場合は流水・石鹸で患部を洗うなどし、かゆみの軽減をはかるようにしています。デング熱、ジカ熱予防のために蚊にさされないようにしましょう。

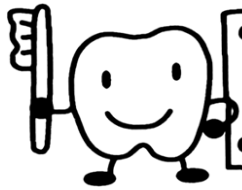
予防策として長袖、長ズボンを着用してください。

『ディート』とは

昆虫忌避剤です。アメリカ軍が兵士用に開発した薬で、ベトナム戦争や湾岸戦争でも使われました。稀ではありますが重症の神経障害を起こしたり、皮ふ炎を起こすことがあります。2005年8月に厚生労働省より医薬品に「子ども（12歳未満）に使用する場合には、保護者の指導監督のもとに以下の回数を目安に使用すること。なお、顔には使用しないこと。*6か月未満は使用しないこと。*6か月以上2歳未満は、1日1回。*2歳以上12歳未満は、1日1～3回」と使用上の注意に載せるよう発表されています。

日焼け止めについて

保育園では日焼け止めは軟膏処置になるため使用しません。



みがこうよ 未来へつなげる しょうぶな歯

6月は『歯の衛生週間』です。最近、かまらずに飲み込む子が増えているといわれています。子どもは、毎日の食事を通して、舌の使い方を覚え、口のまわりや下あごの筋肉を発達させ、言葉の発音にもつなげています。口の機能の発達に配慮した食事は、からだや心、そして言葉をも育てることになります。健康と大きなつながりのある『そしゃく』は、育てていくものであって、放っておいても上手になりません。毎日の食事を通して、身につけていきたいですね。

～乳幼児から始まる歯の健康管理～

8020（ハチマルニイマル）運動：

「80歳になっても20本以上自分の歯を保とう」という運動です。

生涯自分の歯で食べる楽しみを味わえるように、お子さんの歯の健康について考えてみましょう。

乳歯は虫歯になりやすい！

乳歯と永久歯の基本的な構造は同じですが、歯の一番外側にあるエナメル質の厚さが、永久歯の1/2と薄く、あっという間にむし歯になってしまいます。



身近な人からうつりやすいむし歯菌！

生まれたばかりの赤ちゃんの口の中には、むし歯菌は存在しませんが、口うつしで食べ物を与えたり、スプーンを共用することで、唾液に混じったむし歯菌が子どもの口に入ります。できるだけむし歯菌の定着を遅らせるために、口移しやスプーンの共有は控えましょう。

ダラダラ食べ、ダラダラ飲みに注意！

糖分を含んだものを食べると酸によって歯が溶けますが、唾液が修復してくれます。しかし、お菓子やジュースなどをダラダラ食べたり飲んだりしていると口の中が常に酸性の状態になり、修復できず、むし歯になりやすくなります。

仕上げみがきのポイント



上唇小帯（上唇の内側にあるひだのようなもの）にブラシがあたると痛いので、人差し指で保護しながらみがいてあげましょう。

子どもにとっては、はじめの歯みがきの体験が良くないと、歯みがき嫌いになりやすいものです。歯みがきは、子どもが嫌がらない程度にサッサッとみがいてあげるのがコツです。

子どもたちの“自分でやる”気持ちを大切にしながら、おとながきちんと仕上げ磨きをするようにしましょう。子どもとのスキンシップにもなりますよ！

お口をブクブクゆすぐようになるのは2歳頃。歯みがきが難しい子（年齢）の場合は、食後にお茶や水を飲ませることを心がけるだけでもむし歯予防につながります。

***歯ブラシを口にくわえたり、手に持ったりしたまま歩くのは危険です。歯ブラシの先端はとがっていませんが、転んだりつまづいたりすると口の中に刺さってしまうおそれがあるので、座ってやりましょう。**

☆**医師の登園許可証明書及び保護者の登園届**および、おたよりのバックナンバーは
あおぞらのホームページ「<http://www.yokohama-aozora.com/>」にあります。